

淡交会報

第74号

2015



通信・放送の光化推進 ADSLのレジェンド
小林 博昭さん (59回) インタビュー

君子之交淡如水
小人之交甘若醴
莊子

都立両国高等学校 淡交会

最先端の高速通信と放送を光ファイバーで
実現するソネット株代表取締役

小林 博昭 さん (59回)

小林さんが次々と新しいことに挑戦する姿に驚かされます。今はどんな仕事をしていますか？

「創業以来23年になります。有線通信では、光ファイバーを鉄道会社、NTT、国土交通省などから入手し、光ファイバー網の運用サービスを提供しています。提供先は東大地震研究所(300kmに及ぶ)、その他大学やCATV事業者、テレビ局などです。また、成田空港内で200回線ほどのADSLを納入し保守をしています。」

無線事業はEバンド(70・

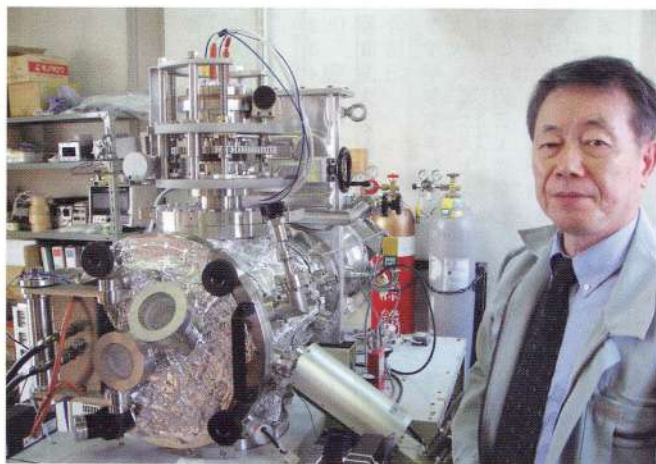
(注1) GHz(キガヘルツ) 〓周波数や振動数の単位で1秒間に10億回を意味する。

(注2) Mbps(メガビット毎秒) 〓通信速度の単位。1Mbpsは100万bpsで1秒間に100万ビットのデータを送れることを表す。

80GHz帯)、Vバンド(60GHz帯)を利用した超高速通信装置を販売しています。WiFi無線ではエリクソン社の日本総代理店として全国の大学、病院、観光地、企業に無線機を敷設しています。最近の例では、浅草の商店街のフリースポット、長野県の野沢温泉スキー場へWiFi無線装置を敷設しました。接続認証ソフトは自社開発しています。

高速通信 挑戦の日々

業をしていそうですが。「1芯の光ファイバーを用いることで、各戸に従来の300倍に近い2500Mbpsの高速インターネット接続と地デジ、BS/CSのテレビ配信サービスが同



シリコン単結晶薄膜生成のための真空実験装置について説明する小林さん(三鷹市のデジテックス研究所で)

した。スキー場側は接続する人はどの国の人が何人いるのか、いつ利用しているかを即座に把握できます。自画撮りシステムに登録すると、滑っている自分の姿をカメラが自動で撮影し、スマホで見ることができ「す」

1芯の光ファイバー
長崎県の五島列島で事

時に可能となりました。三鷹の研究所で画期的な実験を続けていると聞きました。「当社の取締役だった故浅川俊文氏(ファミコンチップの設計責任者)の特許に基づき実験です。シリコンの単結晶薄膜をガラス面に生成する技術で、大手企業と共同実験中です。現在の太陽電池は多結晶シリコン

を使っています。シリコン薄膜の中を流れる電子の速度が高速化し、太陽電池の発電量が2倍になります」

ADSLの先頭に立つ

ところで、小林さんはADSLを日本に最も早く紹介した男と言われています。「AT&TパラダインというAT&T傘下の会社の日

本法人の経営者としてADSLモデムの開発に関与していました。米国ベル研究所(7人のノーベル受賞者を輩出)とAT&Tパラダイン社が共同で行い1990年前後にLSIチップが完成しました。従来のモデムの150倍の速度です。私がモデムを取り扱うようになった経緯は、リコーの社員から脱サラして、両国高校の同窓の川合克明君と山分正起君から100万円の出資を受けて会社を立ち上げ、その後、米国パラダイン社から資本提供を受けたので、投資してくれた友人にはプラスチックで返金し、米国資本の日本パラダインというモデム販売会社を立ち上げました。その後、AT&Tの本社買収で社名も日本AT&Tパラダイン(株)になります」

リコーを辞めて独立するなんて家族の反対はなかったですか？

「辞めてから報告しました。当時は銀行のオンライン化でモデム需要が増大、パラダイン社の高性能なモデムは飛ぶように売れました。売り上げゼロから9年間で年商27億4000万円、社員数70名になりました」

ADSLに乗り出さき

かけは？

「AT&T本社とチップの日本販売を計画しましたが、光ファイバーを推進するNTTの方針の前には全く売れませんでした。日本の電機メーカーは当時、光ファイバーを全面推進するNTTの意向に反して電話線（針金）利用のADSLに

加担することは絶対になかったのです。ADSLの将来性に目を付け、AT&Tをスピニングして独立した米国の仲間が製造したADSLを日本に販売するために、日本AT&Tパラダイムの社長職を日本IBMから来た方に譲って退職し、退職金全部を注ぎ込んで93年にソネット株を創業、AT&Tのチップを使ったADSL製品の販売を始めました。95年、都内のホテルでADSLによる映画を送信す



小林さんはSTOL（短距離離着陸機）を組み立てにも取り組んでいる（墨田区文花のすみだ中小企業センターで）

る公開実験を行い、1週間て1000人ほど来場者がありました。その年の暮れ、ADSL一式を最初に買ってくれたのはソフトバンク株の孫正義さんです。同じ装置を翌年はNTTの通信研究所でも購入してくれました」

ADSLは既設の電話線を使えるのが強みですが、NTTの協力は得られたのですか？

「昔の仲間の見方はそれぞれですが、是非々々で協力してもらえたと思います。NTTの人達と会議では激論しても、終われば仲間みたいな雰囲気でした。ADSLサービスに使用する電話線の利用料金を決めるときは、激論を交わしていた当時のNTT相互接続推進部のトップの大岡さんと神戸大学教授だった行司役の平野先生と呉越同舟3人で

米国に行き、一緒にレンタカーを借りて米国の地域電話会社数社を訪問し、調査してきました。最初NTTは、利用料は800円などと言っていたのですが、米国での直接の調査で160円前後に落ち着きました」

東京めたりっく通信

99年にADSLのサービスプロバイダー「東京めたりっく通信株」を設立しましたね。

「東京めたりっく通信は99年12月24日（娘の誕生日）にADSLの最初のサービスを開始しました。サービス開始前後の経緯を述べますと、97年長野県の伊那市農協が有線放送電話線を使ってADSL実験を開始しました。99年9月に長野市川中島町で有線放送電話網を用いて、日本で最初のADSL商用サービスを始めました。その速さは『カメとロケットの差』と評価され、お客様に満足いただけるサービスであることが実証されました。当時はITバブルの時代で、出資者を募って60億円を集め、モルガン銀行などの外資も10億円出資してくれました」

しかし、経営がうまくいかず、2年後に孫正義さん

んに売却したわけですね。「原因は幾つかありました。（1）孫さんから株式を3分の1欲しいという非公式な打診があったとき断ったこと。

（2）電話回線は開放されたが電話局間の光ファイバーは開放されなかったため、バックボーンをNTTコムのATMサービス、100局で月額5000万円を使わざるを得なかったこと。

（3）収入が思うように伸びなかったこと。NTTの牛歩戦術もあり、ADSLの滞留は1万5千件にもなり、収入は思うように得られませんでした。

（4）ATM交換機のシステムを採用せざるを得なかったこと。ほんの少し待てばNTTの光ファイバーは開放され、安価なEthernet通信が可能でした。

（5）次の手を打つ資金の不足。NTTもADSLサービスの開始を宣言し、郵政省は平等な競争を行えるよう、NTTに光ファイバー貸し出し先は東京めたりっく通信で、2000年12月27日でした。しかし、その時点でもはや資金は枯渇してしまっていました。

（6）資金を得ようと開始

した第三者割当増資最中に、新聞に「金融危機」と4段か5段抜きの記事を出されたため、出資者は集まらず追い込まれました。

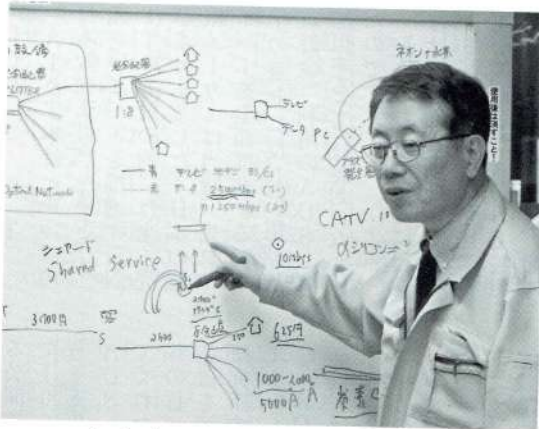
高速サービス勝ちたい

93年に創業したソネット株の経営は順調です。「ソネット株は、インターネットが拡大する中で機材のサプライヤーとして生きてきました。ADSL時代は月次で2億円弱の売り上げも記録しましたが、この5、6年は年間10億円の需要は完全にゼロになりました。しかし無線事業に転換していたのでADSLの衰

した

退期にも仕事は継続しました。光ファイバー事業に早く転換できたことと、その後のエリクソンのWiFiに取り組んだお陰で、ポジティブな事業を運営出来ています。もう一度、NTTやソフトバンクなどと競争して光ファイバーによる高速サービスで打ち勝つことを夢見ています。それが1芯の光ファイバー事業です。必ず成功させたいと思っています」

ADSLは、最盛期に1500万件以上いた利用者が、昨年9月末現在では407万件に減少していると言われます。ADSLの時代は終わったのですか？



インタビューの最中、ホワイトボードに書いて説明する小林さん

の主流であった各種スイッチ類とLANケーブルの通信設備は、電力を必要としない光ファイバーに置き換わります。この米国の新しい流れは世界の潮流になっていくと思います。光化

「機材供給面からADSLの時代は数年前に終わっています。NTTの電話線サービスは2025年に終了する予定です。ADSLは専用線のサービスとして多少は残ると思います」

「これからの通信業界はどうなりますか？」

「米国のかつてのコンピュータ業界の巨人IBM社、光ファイバーのトップメーカー、コーニング、3MなどがAPOLAN協会を2013

役立った高校の勉強

がやっています。

登山家が夢だった

話は変わりますが、子供時代は将来何になりたかったですか？

「登山家です。両国高校では、仲間とよく山登りをしました。長野・八ヶ岳を4度、入笠山、山梨の扇山などほとんどの山は登りました。登山部ではなかったのですがね」

高校で印象に残る先生はいますか？

「英語の杉安太郎先生。本所中の同窓生が、杉先生が怖くて3か月で学校をやめちゃいました。私は別に怖いとも何とも思わなかった

です。成績はともかく英語が好きでしたから」

「運動会で仮装行列をやった時、登山家の格好で、そのまま(電車で乗って)山へ行っちゃったことがあります(笑)」

「両国で学んで良かったですか？」

「高校で勉強した数学、英語、物理、化学でこの70年余りを生きて来れたと思います。今でも仕事が出来ているのは両国のお蔭です。物理は霜田先生、数学は横田、祥雲、深海各先生方、英語は山下、杉、池田の各先生方に感謝しています」

飛行機作りで町興し

趣味は何ですか？

「特にないです。すみだ中小企業センターで、地元の工場経営者、社員の入連、有志15人と『ヒコキヤロウ』という組合を作り、STOL(短距離離着陸機)を組み立てています。趣味というより皆と楽しく機械の町墨田区の町興しをやるうということですよ。2人乗りで、来年には飛び立てる予定です」

両国高・附属中の後輩に一言お願いします。

「平凡ですが、思い切り勉強し見聞を広げましょう。両国で学んだことで色々なことに挑戦してることが出来ました。全力で勉強することは一生役に立つ知識を身につけることです。それとベンチャービジネスに将来取り組むなど新しいことに挑戦してほしいと思います」(3月12日、墨田区業平のソネット株で)(宇)

◇◇◇

こばやし・ひろあき 1

94年1月、東京・墨田区生まれ、71歳。

墨田区立業平小、同区立本所中を経て1959年、両国高校に入学。62年に両国高校、68年に慶応義塾大学経済学部を卒業した。

NOK(日本オイルシール工業)、リコーを経て、1981年にモデム通信機の日本パラダイン(株)を創業、代表役員に就任。88年、米本社の買収に伴い日本AT&Tパラダイン(株)に名称変更。92年、社長を退任し顧問。93年にソネット(株)を設立し、代表取締役となつて現在に至る。99年に東京めたりっく通信の社長に就任、2001年ソフトバンクに売却した。ブロードバンド推進協議会(孫正義理事長)監事。